
私説イソップ ウサギとカメ

西宮尚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私説イソップ ウサギとカメ

【Nコード】

N2517C

【作者名】

西宮尚

【あらすじ】

あるところにウサギとカメがいました。ウサギはカメの遅さとバカにしました。ショートショートないソップ私設寓話集です。

あるところにウサギとカメがいました。
ウサギはカメの遅さとバカにしました。

怒ったカメは、ウサギと山の頂上まで競争することにしました。

競争がスタートして、ウサギは最初一生懸命走りましたが、カメが遙か後ろにいることを知って昼寝をしてしまいました。

カメはコツコツと歩んでいきました。寝ているウサギを追い越して、一番に頂上につきました。

カメは勝ったのです。

カメは、自分の生き方が正しいものだ と確信しました。

しかし、しばらくするとカメの体調が悪くなりました。

身体がだるく、何もやる気がおきません。

カメは医者に行きました。

医者はカメを一通り診察して言いました。

「あなたのように、まじめでコツコツと仕事をこなす人が多くかかる『うつ病』です。」

あなたも、ウサギのように、働く時は働き休む時は休むというように、生活にメリハリをつけた方が良いですよ。」

この話は、本来は美德であるはずのまじめさだけでは生き辛く、生活に楽しみを持つことが良いことを示しています。

私説イソップ キツネとブドウの木

あるところに、キツネとブドウの木がありました。

ブドウの木には、美味しそうなブドウが実っています。

キツネはブドウを取ろうとしました。しかし、高い場所になつていたブドウは、どんなにがんばっても取れません。

仲間のキツネたちは、「あのブドウは酸っぱいに違いない」と毒づいて去っていきました。

しかし、一匹のキツネだけはあきらめずに、ブドウを取る努力を続けました。

キツネは、『こんなに一生懸命にがんばっているのだから、絶対に美味しいブドウに違いない』という妄想を抱いてしまいました。

そのようにしているうちに、ブドウが腐って地面に落ちました。

それを食べたキツネは、他の仲間たちが言ったように、本当に酸っぱく不味いブドウであることに驚きました。

そして、キツネは嘆きました。

「なんとということだろう。こんなに酸っぱいブドウのために、なんて努力をしてしまったのだろう。」

それを聞いてブドウの木が言いました。

「手に入らなければ勝手に美味しいと思ひ込んで、手に入ると幻滅して、なんて迷惑なキツネなのでしょう。」

この話は、欲しい物は手に入れるまでが一番楽しい、もしくは、幻想を抱かれてしまった者は幻想を抱かれたままにして与えてはいけないことを示しています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2517c/>

私説イソップ　ウサギとカメ

2010年10月11日17時14分発行